

## I 研究主題について

### 1 研究主題

## 英語に親しみ、進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成

### 2 研究主題設定の理由

#### (1) 教育の今日的課題から

グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力は、一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定され、その能力の向上が課題となっている。相手の立場を尊重しつつ自分の考えを表現し、相互理解を深めていく必要性は高まる。そのような中、一人一人が、社会的・職業的な場面において、外国語を用いて互いの思いを伝え合い理解し合い協力し合うことが一層重要になると考えられる。文部科学省は、平成26年に「今後の英語教育の改善・充実方策についての報告～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～」を公表し、英語教育の充実・強化のための改革が示された。そして、学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学びの実現」が掲げられ、中学年での外国語活動、高学年での外国語科が導入されコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するという目標が設定された。このことから、小学校では、指導体制の充実や授業の工夫・改善を図りながら、英語に慣れ親しませ、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することが重要になってきている。

#### (2) 学校教育目標から

本校の教育目標は、「夢に向かい 心豊かで たくましく 自ら学ぶ 高木っ子の育成」であり、育みたい資質・能力「自律（立）、そして自尊感情と他者意識」を掲げている。研究主題は、以下のような視点から学校教育目標の具現化に資すると考える。

○英語学習の推進は、豊かな心を持ち、めあてに向かって自ら学び、思い・願い・夢を表現する児童の育成につながるものである。

○様々なコミュニケーション活動を通して、互いを理解し、他者を尊重し協調する姿、自分で課題を見つけ解決していく態度は、豊かで自ら学ぶ児童の姿と言える。それを他教科、他活動に生かすことで思考力や表現力が高まり、確かな学力の向上につながる。

### (3) 児童の実態から

昨年度から本校は、教育課程特例校の指定を受け、全学年で「英語科」の学習を行ってきた。サブテーマを「見方・考え方を働かせ、楽しく活動できる学習づくりを通して」と設定し、「学習づくり」と「環境づくり」の二つの視点で取り組んできた。意識調査の結果や児童の姿から次のような成果や課題を確認した。

- 児童の意識調査の結果から、約90%の児童が「英語学習は楽しい」「英語の発音やリズムに気を付けて話している」と答え、児童の興味・関心を高めることができた。
- 進んで友達と関わり、ゲームをしたり話したりした児童は約85%で、英語学習以外の授業や活動でも、進んで自分の意見を発表したり、相手意識をもって伝えたりしようという意識が高まってきた。
- 校内行事紹介の掲示を英語で行ったことや英語の歌を歌ったり英語の本を読み聞かせたりしたことで、日常的に言語や文化に親しむことができ、外国の言葉や文化を知ることがおもしろいと答える児童が増えてきた。
- △相手に伝わるように話そうと心掛けている児童は増加したが、相手の話を聞いてリアクションしている児童は多いとは言えない。また、英語を聞き取ることや自分の気持ちを伝えることへの苦手意識を感じている児童が約18%いた。
- △コミュニケーション能力を日常生活の中で生かすことを意識する必要がある。

以上のことから、思いを伝え合うことができる児童を育てていくために、授業の改善、英語に慣れ親しませる工夫や指導体制の充実、他教科・他活動との関連を図った取り組みを中心にした研究を重ねていくこととした。

### 3 研究主題の分析

#### 「英語に親しむ」とは

- ・英語の音声や語彙、表現や文の構造などを理解し、基本的な表現を用いて楽しみながらやりとりしたり発表したりすることを通して日本語と英語の違い英語特有の音声やリズムに気付き、英語に繰り返し触れること。

#### 「進んでコミュニケーションを図る」とは

- ・コミュニケーションの目的、場面、状況に応じて、主体的に人と関わり合う中で、相手や他者に配慮しながら相手の思いなどを聞いて理解しようとしたり、進んで自分のことを分かりやすく伝えようとしたりすること。

## II 研究の方法

### 1 研究の仮説

単元を通した授業を工夫し、互いに考えを伝え合う学習活動を大切にした授業づくりを行えば、英語に慣れ親しみ進んでコミュニケーションを図ろうとする児童が育つだろう。

### 2 研究の視点

- 【視点1】 興味・関心を高める必然性のある場面設定
- 【視点2】 一人一人が英語に慣れ親しむための工夫及び低・中学年の系統化
- 【視点3】 他教科との関連及び低・中学年の系統
- 【視点4】 評価の工夫

### 3 研究の構想

